

被服学

高分子材料

研究機関研究員

大学教員

## 継続は力なり！ Life-Workバランスはライフサイクルに応じて柔軟に調整！

大山秀子（立教大学理学部化学科 教授）

## 仕事の内容とやりがい

大学で化学を教えています。次世代を育てる責任の重さと楽しさを日々、感じています。研究では「高分子材料の機能化」の研究に携わっています。初めて研究室に入ってきたときは、右も左も分からなかった学生達が研究の楽しさや大変さを体験してどんどん成長していく姿を見ますと、「教師冥利に尽きる」とはこのことなのだろうと思います。また、国内の企業や他大学の研究者だけでなく、海外の研究機関とも仕事を通じて交流が持てるのも醍醐味の1つです。

## 仕事と生活とのバランス

博士号取得のため日本に一時帰国したとき、切迫流産を起して入院し、最終試験は病院から大学に直行しました。いろいろな予測不能なことが人生には起こるので、その時々で家庭と仕事のバランスを柔軟に取りながら、対処していくしかありません。私の場合、2人の子供が小さい時は、主人がアメリカの大学でテニユア（終身雇用が保証される権利）をとるために頑張らなければならぬ時期でもありましたので家族を支える側に徹し、徐々に自分の仕事の比重を増やして行きました。家族や良き友人達の支援に恵まれたお陰で現在に至っています。

## 進路決定のきっかけ

祖父の代からの化学者の家に育ちました。子供のときより父の研究室の学生達がよく遊びに来ていましたので、アカデミックの世界は身近かでしたので、自分自身が化学者になる/なれると思いついて描いていたわけではありません。結婚後、15年間アメリカで生活をしました。主人の仕事の関係で田舎の大学町に住むことになり、私にとって社会と繋がる場がその大学にしかなかったという事情もあり、子育てをしながら細々と好きな研究を続けてきました。「塵も積もれば山となる」というペースで論文博士で博士号を取得し、現在に繋がっています。「継続は力なり！」です。

## 進路選択に対するメッセージ

大学受験では自分の偏差値や受験科目を重んじて受験先を決めることも往々にしてあるかもしれませんが、大学に入ることは目的ではなく、将来自分がどういう方向で自分の可能性を伸ばしていきたいのか、漠然としたものでいいですから夢を持って考えてみましょう。夢があっても実現できるか分からないという不安があるのは当たり前！夢に向かってチャレンジしてこそ可能性が生まれてくるのであって、チャレンジもせずに後で後悔するほど、勿体ないことはないと思います。

## 海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

自分自身の育った環境では常識だったことが、常識でないを知る驚きから始めて、人生の見方、考え方がリセットされて柔軟になり、自立心が養われたように思います。「女性だから、妻だから、母だから。」ではなく、「1人の人間として」どうありたいのか、と考えるようになりました。主人が勤務する大学を数年ごとに変わりましたので、それに付き添って私自身も移動し、不安定な身分で全く違う研究テーマに取り組みながら、もまれました。多くの苦労がありましたが、日本の縦型組織の中で同じ分野に留まる方式では得られない訓練を受けられたと思います。

## 海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

私が大学院進学を決めた30年以上も前、「もうお相手は決まっているのですね」とお友達のお母様から言われたことがありました。つまり、「高学歴になると縁遠くなる。女子に高学歴は不要。」との考えですが、今、勤務している大学でも同様な考え方をなさる保護者の方がいらっしゃるのには驚きます。アメリカではジェンダーに関りなく、多様な生き方を受け入れてくれる土壤がありますので、自分に正直に周りの目を気にせず、好きなことに邁進することができました。ですから、海外の研究生活で女性として意識したことは全くありませんでした。

## 海外留学・勤務を決めたきっかけについて

主人がアメリカで勤務していたので、結婚とともに海外生活となりました。私は社会と繋がりたいと思ひ、修士論文を元に書いた英文の論文を持って主人の母校の先生に会いに行き、「無給でいいから研究をしたい」とお願いしました。それがきっかけで、Visiting Scholarとして実験室に通うようになったのですが、成果を出すようになると大学院生と同じように給料をもらえるようになりました。アメリカには15年ほどおりましたが、その間、3大学で研究生活を送り、米国科学財団(NSF)や日本学術振興会(JSPS)の支援も受けて、両国間を行き来しました。



## &lt;大山秀子（おおよまひでこ）プロフィール&gt;

神奈川県立湘南高校→お茶の水女子大学家政学部（学士・修士）→共立女子大学家政学部化学教室 助手→<結婚>→米国Stanford大学化学工学科 客員研究員<第一子出産>→東工大<論文博士(理学)取得>→米国Clarkson大学 博士研究員<第二子出産>→Virginia工科大学化学科 Research Faculty→東工大理工学研究科 客員研究員→(独)産業技術総合研究所 主任研究員→現職

